

# 宝くじ おもしろ話

## 「関・中・東」の名称の不思議 呼称の順番と「北海道」の有無

「三重県」は近畿地方なのに「関東・中部・東北自治宝くじ」に、なぜ、属しているのか。これに関しては、当協会報・95号（2016年9月）で紹介した。今回はその続編だ。

関・中・東の「名称」には、まだ2つの不思議がある。第1は、参加地域を北から列記するなら「東北・関東・中部」で、南から列記するなら、逆の順だ。なのに、現在の順は少々ヘンだ。なぜだろう。昭和30年4月に「関東・中部連合自治宝くじ」が発足。その後、同34年4月に「東北自治宝くじ」が参加。この「あ

とからの参加」ということで、現在の「関東・中部・東北自治宝くじ」になったようだ。

第2の不思議は、この「関・中・東」に北海道地方が参加したのは昭和44年4月から。だが、なぜか、ここに「北海道」の名称がない。

北海道が独自に「北海道宝くじ」を発売したのは昭和22年9月から。そして、40年3月まで発売して廃止。その後、道内で発売されたのは「全国自治宝くじ」だけとなった。だが、昭和47年4月から札幌市が政令指定都市になるのを機に北海道と札幌市が「関・中・東」に参加して現在に至っている。この時、名称に関して検討されたと思うが、現在の名称に「北海道」はない。加えると、名称として「長い」。そこで「東北地方に含める」ことにしたようだが…。



# 宝くじ おもしろ話

## 時代を映す「末等賞金の条件」 「半返し」から「元返し」へ…

宝くじの賞金条件の1つに「元返し」「半返し」がある。「元返し」とは宝くじの末等の賞金額が、購入した宝くじの単価と同額のことをいう。これに対して「半返し」とは、末等の賞金額が購入宝くじの単価の半分の金額のことをいう。

終戦間際の昭和20年7月に発売された「勝札」から始まる日本の宝くじの歴史だが、最初の「勝札」は1枚の価格が10円で、末等の賞金額も10円の「元返し」だった。しかし、その後はまちまちで、まったく定まっていない。

昭和29年3月に政府発売の宝くじが廃止。その後、昭和34年4月に現在のブロック宝くじが出そろった時点でみると、全ブロック宝

くじとも1枚100円で末等当せん金額は「50円」の「半返し」となっている。

それが、昭和40年代半ばに至り日本の高度経済成長とともに、人々の宝くじに対する考え方もレジャー化して最高賞金額もアップ。この波を受け、末等当せん金額も「100円の元返し」になり、現在に至っている。なお、その最初は昭和47年10月7日発売の第588回関東・中部・東北自治宝くじで、1枚100円で末等は下1桁数字を2つ抽せん。その当せん金額は購入単価と同じ100円の「元返し」で、現在も「元返し」は続いている（ただし、抽せん数字は1つ）。

なお、このほかのブロック宝くじの「元返し移行日」は次の通り。◎第448回西日本宝くじ（昭和48年4月1日発売）◎第716回近畿宝くじ（同年4月2日発売）◎第103回全国自治宝くじ（同年5月2日発売）◎第857回東京都宝くじ（同年7月14日発売）。



# 宝くじ おもしろ話

## お客さんに夢を楽しんでもらう努力 全国の愉快な宝くじ売り場3つ紹介

インターネットで「宝くじ」を買える時代とはいえ、町の宝くじ売り場は、宝くじの歴史始まって以来、宝くじ販売の母体であり、宝くじ販売の最前線だ。そうした全国の売り場の中から変わりダネの「名物売り場」を3つ紹介しよう。

《招き猫の足跡がある売り場》最初は秋田県秋田市の「広面チャンスセンター」。27年前の店舗改装のさい、店前のコンクリートのたたきが乾かぬうちに猫が店の方向に歩いて、13カ所ほど「足跡」をつけてしまった。その後、大当たりが連続して出たことから、この足跡は「招き猫の足跡」だと評判に…。お客は購入した宝くじ券を足跡にスリスリして当せん祈願。いまや、足跡は擦り減って埋め込みの「鋼鉄製」に。

《ジャンボふくろうの店》次は東京都豊島区

の池袋駅西口地下街・東武ホープセンター2号店だ。平成16年暮れに地名にちなみ、店頭で背丈約1mの「ふくろう」の置物を設置した。名前は「ジャンボ福来郎」。そうしたら、その後、大当たりに恵まれて人気者に。いまや、店前は幸運の待合場所となり、池袋名所の1つに…。

《店頭に巨大な「万願寺の1等辛子」》最後は京都府京都市の「地下鉄京都チャンスセンター」だ。ここには地元の宝くじファンや観光客に人気の開運グッズ「万願寺の1等辛子」のぬいぐるみがある。京野菜の1つである「万願寺の唐辛子」は大きくて甘いことで有名。当店の唐辛子もジャンボで長さ約1mで、太さは直径約12cm。ジャンボ宝くじの種類別に色が異なりドリームは黄色、サマーは青、年末は赤…といった具合だ。ジャンボ発売に先立って、いつも近くの八坂神社に持参して当せん祈願。そして、これを発売期間中、店頭で吊るし、お客さんに購入宝くじの当せん祈願をしてもらうのだ。

